

全員参加型ヒヤリハットのすすめ

安全衛生委員向け研修資料

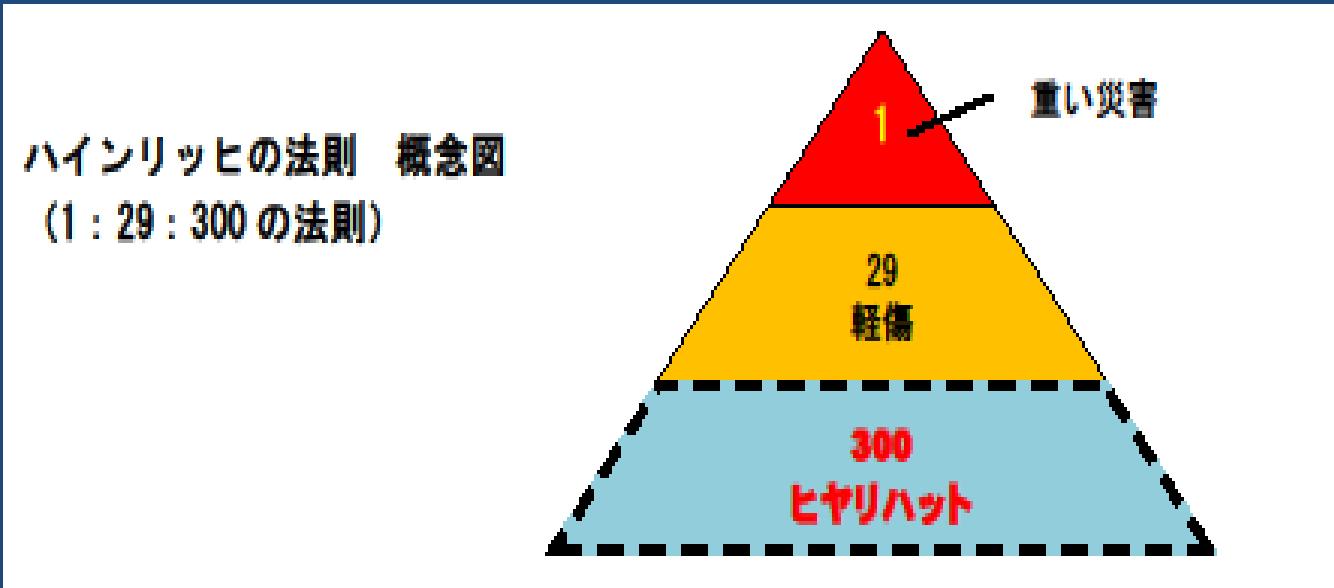
2018.02.26

ヒヤリハットとは

ヒヤリハットとは、

仕事をしていて、もう少しで怪我をするところだったということがある。
このヒヤッとした、あるいはハッとしたことをヒヤリハットという。
日本独自の用語で、欧米で使われている同じような言葉として、ニアミス、クローズコール(危機一髪)などがある。

ヒヤリハットの原点



一件の大きな災害の裏には、29件の軽微な災害、そして300件のヒヤリハット（災害には至らなかったもののヒヤリとした、ハッとした事例）があるとされる。重大災害の防止のためには、事故や災害の発生が予測されたヒヤリハットの段階で対処していくことが必要である。

ハインリッヒ:1886-1962年。米国の損害保険会社の技術・調査部の副部長。

ヒヤリハット報告の効果

ヒヤリハットと取り組むことによって、つぎの2つの効果が期待できる。

○第一の効果：作業当時者の危険感受性の向上

○第二の効果：再発防止のための原因の究明と是正処置の明確化



- ・上記第一の効果は、作業当事者及び直属上司の理解と参加意欲が求められる。
- ・第二の効果は、重大ヒヤリを対象としたもので、工場挙げての改善のための取り組みが求められる。

(参考)インシデントとは

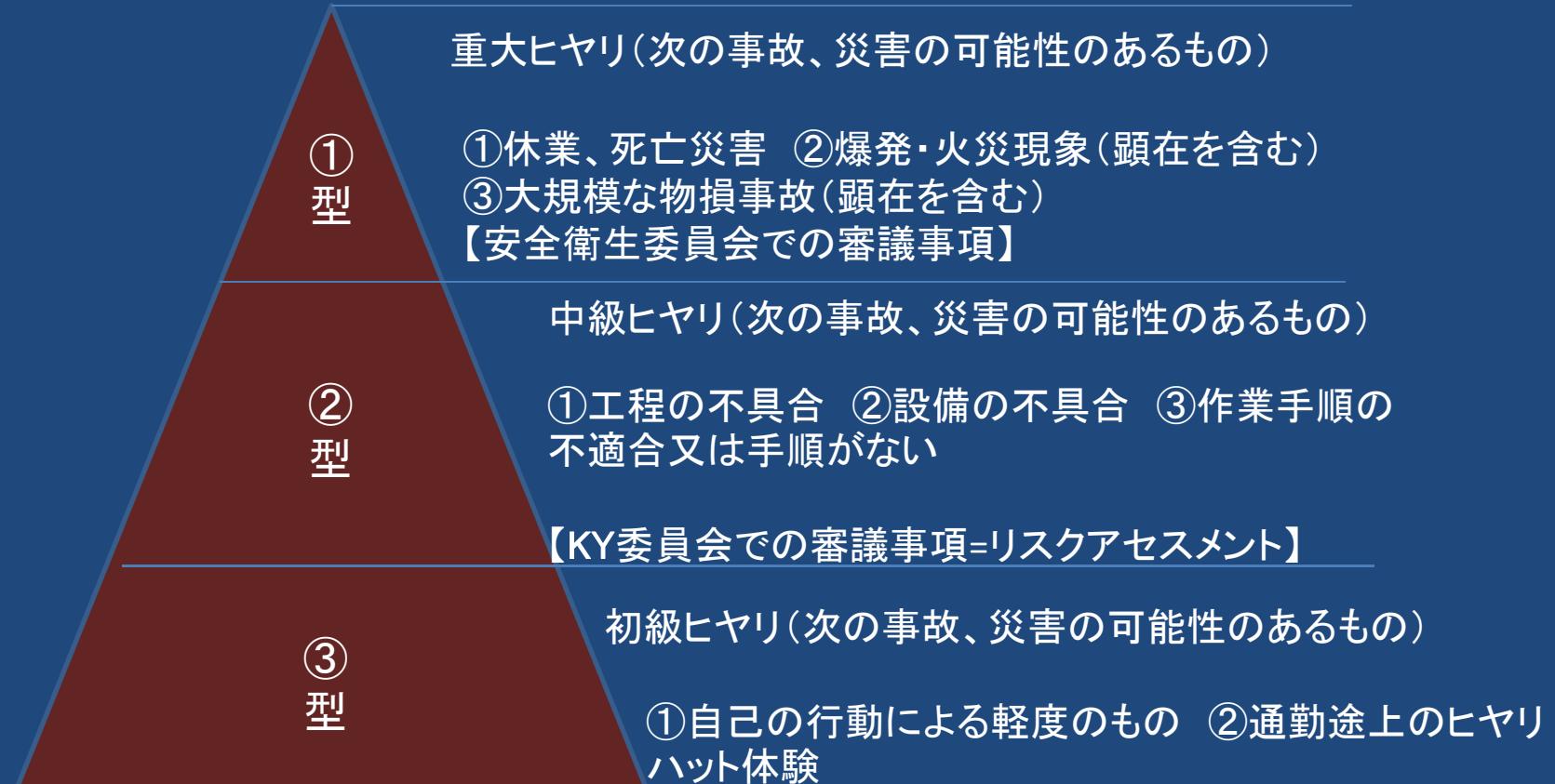
国際的な安全衛生の用語(ISO45001)に、インシデントがある。

- インシデントとは、負傷、疾病、死亡災害を引き起こす、若しくは可能性のある作業に関する事象。
- 負傷、疾病又は死に至らなかつた発生事象は、ニアミス、ヒヤリハットなどと呼ばれる。

発生事象は、調査、分析し、是正処置、予防処置をとらなければならない。

ここで言う、ヒヤリハットとは、P4、6 の“重大ヒヤリ”をいい、現在工場で行っている「ヒヤリハット報告」と同じである。

ヒヤリノットの階層分け



注記 事故・災害は“通勤途上”を含む。

ヒヤリハット報告の手順(例)

ヒヤリハット当事者報告【ヒヤリハット報告書】		
①型重大ヒヤリ (対応:課長)	②型中級ヒヤリ (対応:課長、係長)	③型初級ヒヤリ 対応:リーダー
閲覧:リーダー→係長→課長(情報の共有)		
【重大ヒヤリハット報告書】	【リスクアセスメント報告書】	【ヒヤリハット報告書(メモ書き)】
職制、幹部による原因・対策の検討	職制によるリスクアセスメント、KY委員会決定	

報告者に③アドバイス、①、②は経過報告

ヒヤリハット報告書様式(例)

ヒヤリハット報告書

所属・氏名	(所属)	(氏名)
体験日時		
どこで		
どうしていた時		
なぜ・どうなった		
あなたの感じる今後の対策	今後の対策(こうして欲しい)	
	あなた自身の問題(反省点)	
報告ありがとうございました。		
報告内容の検討結果	重大ヒヤリに該当します。 工場全体で原因、対策に当たります。今後の調査に協力下さい。	
	中級ヒヤリに該当します。 リスクアセスメントを行い、対策を検討します。今後の調査に協力下さい。	
	初級ヒヤリに該当します。 体験したヒヤリについて、今後十分安全に配慮して行動して下さい。	

回答年月日

報告者が記載

職制の上司が記載

課長	係長	リーダー

ヒヤリハットを成功させる5条件

1. ヒヤリハットコミュニケーションを図る。

報告書のキャッチボールを通じ、報告者と職制上司との事故・災害防止のためのコミュニケーションを図る。

2. 全員参加型で取り組む。

上司部下の関係なく、作業（マイカー通勤時の運転を含む）を通じて体験したことを報告。

3. 先取り安全対策を進める。

全員参加型ヒヤリハットの取り組みは、究極の先取り安全につながる。

4. ヒヤリハット報告の目標化

全職場単位での目標化→一人当たり年間〇件などの指標化

5. 安全衛生報償制度への組み込み

目標をクリアーした職場単位での表彰